

山名・山城	尾瀬ガ原・燧ヶ岳・(*至仏山)
山行目的	初秋の尾瀬を楽しむ
山行期間	9月16日(金)～18日(日)
参加者	3名

ルート、コースタイム

9月16日(金)：東武浅草駅 23:55 発(夜行尾瀬号)

9月17日(土)：会津高原尾瀬口 3:18 着－4:20 発(バス)＝尾瀬御池 5:50 着

尾瀬御池 6:40・・・7:38 広沢田代・・・8:17 燧ヶ岳5合目・・・8:30 熊沢田代・・・10:00 燧ヶ岳(俎嵯
2346m・柴安嵯 2356m・御池岳)・・・13:30 沼尻・・・見晴・・・15:00 弥四郎小屋

【歩行時間7時間40分、休憩含む】

9月18日(土)：弥四郎小屋 9:15・・・9:40 竜宮十字路・・・10:43 山ノ鼻(時間をつぶす)・・・14:16 鳩待峠

【歩行時間3時間、休憩含む】

鳩待峠 15:45 発(バス)＝東武赤城駅 19:00 発＝東武浅草駅 20:55 着

山行記録(記録性を重視し、天候、コースの状況・特徴、注意点、必要になった用具など)

尾瀬御池ロッジのベンチで身支度と軽い腹ごしらえをして出発。燧ヶ岳に向かう登山道に入って間もなく、ポツポツと雨が落ち始め、合羽を着る。しかし、我々の普段の行いが良いのか、雨はほんの数分降っただけでパタリと止み、山小屋に着くまで降ることはなかった。薄曇りの一日であったが、時折青空が見える時もあった。

最初の森を抜けると、広沢田代の湿原に出た。尾瀬に来たことを実感する。燧ヶ岳5合目を過ぎ、また下ると今度は熊沢田代に出る。どちらの木道歩きも、尾瀬を感じさせてくれる。8合目あたりに来ると傾斜もきつくなり、広い所で小休止。他の登山客も休んでいた。人間みんな同じだ。そこからは頂上まで行く。

燧ヶ岳の頂上(俎嵯まないたぐら 2346m)からは、尾瀬沼の全貌がはっきりと見えた。もう一つの頂上(柴安嵯しばやすぐら 2356m)へ行くには、一度少し下ってまた登り返すようになる。こちらの方が若干高いので正式な頂上となる。曇り空の割にはと下の景色が見えた。見晴に行くには、この柴安嵯から降りて行き、見晴新道に行く方が近道だが、事前の情報で途中崩れている所があるとのことで、見晴新道には行かず尾瀬沼の沼尻へ行くコースを選んだ。後でわかったことが、見晴新道に行くルートは現在通行可能。沼尻に降りる道は石がゴロゴロして傾斜もあり、降りても降りても終わらないといった感じで、とても疲れる嫌なルートだった。

沼尻によりやく到着。「火事でトイレが消失」という情報があったが、仮トイレがあり、ひと安心。尾瀬沼の落ち着いた姿を見て心が和む。ここからは木道を少し行くと、山の中に行くこととなる。しばらく行くとまた木道になり、3時少し前には、見晴新道から来る道とぶつかり、すぐに見晴の山小屋が並んでいる場所にたどり着く。

弥四郎小屋は一番は端にあって、尾瀬ヶ原のすぐ横というロケーション。風呂に入って、湯船に浸かると尾瀬ヶ原が一面見渡せた。石鹸は使えなかったが、山小屋での風呂は格別。風呂あがり、外で尾瀬ヶ原を見渡しながらか飲むビールはうまかった。宿の部屋はとても古くレトロな感じだが、トイレなどはとてもきれいだった。

翌日は生憎の雨。*至仏山に行く予定はキャンセル。朝、喫茶コーナーでゆっくりとコーヒーを飲んでから出発。秋枯れした、雨の尾瀬ヶ原は、夏と違って、違う場所のようだった。目を惹いたのは、紫色のエゾリンドウぐらい。その時の季節や天気によって、見え方や感じ方が異なるものだ。鳩待峠からは2時間半ほどバスに揺られ、東武赤城駅から浅草まで戻って来た。

